

## 教材開発に向けた「褒め」と「からかい」への反応の分析： 会話分析の観点から

初鹿野阿れ (名古屋大学)  
岩田夏穂 (政策研究大学院大学)

### 1. はじめに

最近の日本語教育における会話教材は、活動ごとに何ができるようにするかを明示した **Can-do** に基づいて作成されたものが増えている。そのことを踏まえ、筆者らは、雑談の展開にみられる会話者の振る舞いから、学習者が知っておくべきだと思われるやり取りの特徴（体験談の組み立て方、相手の発話が分からなかった時の対処の仕方等）を抽出し、それらができるようになることを目標とした教材を開発した（岩田・初鹿野，2012）。本発表では、次の教材の素材となりうる現象の一つとして、「褒め」と「からかい」を取り上げ、会話分析の手法による分析の結果を報告する。そして、学習者が「褒め」や「からかい」の場面で適切な反応ができるようになるために、その成果をどう活かせるかを検討する。

### 2. 先行研究

「褒め」は「評価」の一種である。通常、「評価」に対しては、同意することが「選好的 (preferred)」である（例えば、2人で絵を見ながら、1人が「この絵、おもしろい」と言う行為は評価であり、その行為には、聞き手が「そうだね」と同意することが連鎖上期待される）。しかし、相手への「褒め」の場合、褒められた者がそれに同意することは自己賞賛となる。一般に自己賞賛は避けられる傾向があることから、「褒め」に対する反応には、不同意や、「褒め」の格下げ、「褒め」の対象の移動が起こることが観察されている（Pomerantz, 1978、張，2014）。

一方、「からかい」は、相手の発話に起こる何らかの逸脱（非常識な振る舞い、やり過ぎ等）を指摘することによる、話し手の懐疑的態度の表明であり、相手への批判や挑発といった挑戦的な要素と、それがまじめなものではないという遊戯的な要素の双方を含む。そして、その反応として、笑いや同調だけではなく、笑いのない抵抗や抗議等の「まじめな (po-faced)」反応がしばしば観察されると言われている（Drew, 1987）。

### 2. 分析データ

本発表では、容姿や性格、能力等、褒められる者に備わっている特徴を褒める事例を中心に分析する。対象としたデータは、大学生、大学院生3人（全員女性）のおしゃべり、3組をそれぞれ1時間前後、録音・録画したものである。その中から「褒め」と「からかい」が現れている部分を文字化し、おもに「褒め」「からかい」への反応に注目して分析を行った

### 3. 「褒め」への反応

「褒め」への反応にいくつかのパターンがみられた。事例1では、01行目でラクがトシの目が

きれいだと言われ褒められる。それに対して、トシはラクの発話の終了直後に間を空けず「きれいじゃないですよ」と否定し(02行目)、その後2人の笑いが続く。「褒めの」反応として、否定+笑いというパターンは他の事例にも観察された。

【事例1】(ラクは韓国人短期学部留学生。ハは中国人大学院生。トシは日本人大学院生)

- 01 → ラク: ん↓:: 目が- 目がきれいですね=  
02 ⇒ トシ: =きれいじゃないですよ  
03 ラク: hh  
04 トシ: nhhhaha [hahahahahahaha  
05 ラク: [( )  
06 → ハ: いつもかわいいことやってる  
07 ⇒ トシ: なhにh::? かhわhい[hh  
08 → ハ: [ほんとに(.)みんな(.)あの(.)あの: 同じ(.)国際関係の  
09 → 中国人いっぱいいるでしょ?  
10 トシ: うんうん  
11 → ハ: あ:: あの子はいつもかわいいです  
12 ⇒ トシ: tHAHAHA [HAHA .h ほhんhとにhh?[.hh  
13 → ハ: [ほんとに [女性もそう言ってるよ  
14 ⇒ トシ: [ほんとに:?  
15 ラク: [へえ:::.....[:  
16 ハ: [うん  
17 ⇒ トシ: あれ::? 何してんだh[ろhうhh[h h.hh h h h  
18 ラク: [heheheheh[ehehe  
19 ハ: [h hh

事例1では、続けてハもトシを褒めている(06行目)。この「褒め」に対してトシは、笑いながら聞き返しを行う(07行目)ことで、「褒め」への同意を回避している。するとハは自分の「褒め」が自分だけの評価ではなく、同じ学科の中国人も、さらに(男性だけでなく)女性も同じ評価をしていることに言及し、「褒め」が正当な評価であることを示している(08,09,11,13行目)。しかし、トシは14行目で笑いながら、ハの「褒め」に懐疑的な態度を示し、17行目で笑いながら「何してんだろう」と言うことで、自分のどのような行為が「かわいい」と言われる評価の対象になるのかわからない、つまり、「褒め」の対象が認識できないことを示す。ここにみられる笑いを伴う聞き返し、「褒め」への懐疑的発言、「褒め」の対象が認識不可能であることの表示は、褒められた者が「褒め」を肯定も否定もせずに反応を適切に行うやり方であるといえよう。

「褒め」への反応には、他に、褒められた対象の否定的な側面に言及する、相手を褒め返すといった反応や、反応すること自体を回避する事例もあった。本発表では詳しく扱わないが、褒められる者の所有物や所属機関等への「褒め」には、回避や否定要素のない、同意や笑いによる同調も観察された。

3人の参加者による会話には、褒める者が、一人の参加者について、もう一人の参加者に宛てて褒めるという現象もみられる。

【事例2】(トシとアヤは大学院生。ミキは助産師の資格を持つ大学生)

- 01 → アヤ: すごいね 国家資格持ってんだよ ((トシに視線を向ける))  
02 → トシ: ね::: 強いね. ((アヤに視線を向ける))

事例2では、助産師であるミキが、国家試験に受ければ就職は大変ではないと話すと、アヤがトシに顔を向けてミキを褒める(01行目)。するとトシもアヤに顔を向け、アヤに同意する。「褒め」の対象となるミキは、2人の方を見ているが、01行目が終わったあたりから指で目頭の辺りを掻き始め、03行目で小さく2回うなずきながら視線を落としている。ミキのうなずきは02行目に対する何らかの反応であろうが、「褒め」への同意とは捉えにくい。なぜなら、このときアヤとトシはお互いを見ており、ミキはその2人を見ているため、ミキのうなずきが2人にほとんど認識されないであろうことはミキ自身に分かるからである。ミキは、まるで他人事のように表情を変えず、黙って2人のやり取りを聞いており、積極的に反応することを回避しているようにみえる。

この事例では、褒められた者が積極的な反応を回避しているが、同様の場面で、「褒め」の対象となった者が、「褒め」の発話を宛てられた者よりも先に否定を始める事例もあった。

分析の結果、「褒め」への反応は先行研究で挙げられた以上のバリエーションが観察された。

#### 4. 「からかい」への反応

次に「からかい」に対する反応をみる。事例3はレイコが食べたお菓子が食べているうちに徐々に辛くなり、ついに大声を出すほどの辛さであることが分かったあとのやり取りである。

【事例3】(レイコ、アキコ、ミエは大学院生)

- 01 レイコ： [からい 唐辛子間違えてかんじゃったときの(.)辛さ。  
 02 → アキコ： hh ¥間違えちゃってかんじゃうときある：?¥ hu hu  
 03 ⇒ レイコ： ペペロン [チーノとか  
 04 ミエ： [あ：あ：[わかるわかる  
 05 アキコ： [ああ：：：：：[hahahaha

01行目でレイコは何度目かの「辛い」という言葉を口にし、その辛さを「唐辛子を間違えて噛んだときの辛さ」と表現する。この発話の逸脱性が「からかい」の対象となり、02行目でアキコはレイコをからかう(唐辛子のような食べ物は、気をつけて口に入れるべき物であり、「間違えて」噛むなど常識外れであるという逸脱の指摘)。アキコは笑いを含んだ声で発話し、かつ発話の前後で笑っており、明らかに真面目ではないことを示している。それにもかかわらず、レイコの反応は、笑いや肯定といった同調ではなく、真面目な答え(「からかい」への抵抗)として反応している。このような反応(真面目な否定や抵抗)はDrew(1987)等、多くの事例で分析されている。本データでも複数の事例で観察されたが、事例3のように笑いを伴わないものと、笑いながら、または笑いが前後(またはどちらか)に付加されるものがあった。

「からかい」に対する反応として、笑う、または笑いながら「そうそう」と言って同調する事例も見られた。さらに、ただ同調するのではなく、「からかい」として発話されている非現実的・非常識的な提案に乗って、自分を自分で笑うような反応も観察された(事例4)。

【事例4】

- 01 アキコ： い：：ってなる？ え？(.)辛い食べたらどうなの？  
 02 (1.2)

03 レイコ： え どうなる：- どうなるってひどくなる。なん [か、顔とか [>あたしく  
 04 アキコ： [h h h [h  
 05 レイコ： 炭酸飲むと k uu： : ってなるらしくって ((顔をゆがめる))  
 06 (1.0)  
 07 レイコ： (° なんか [ね：°)  
 08 → アキコ： [じゃあそれ撮ってもらいな h [よ [h： hhhahahaha  
 09 ⇒ レイコ： [h： [ha ha . hhhh こうやって  
 10 ミエ： [hhhhh  
 11 ⇒ レイコ： [カメラ視線 [で？  
 12 アキコ： [あ：ん [ahahaha . hhh

01 行目で、アキコはレイコに辛いものを食べるとどうなるのか聞いている。レイコは自分は辛いものを食べると顔が「ひどく」なり、炭酸を飲むと同様に顔が「k uu： : ってなる」と言いながら、顔をくしゃっとゆがめる (03,05 行目)。08 行目のアキコの「からかい」は、レイコのげさな表現や表情（「k uu： : 」と長く引き延ばされた擬音語と、それを発話するときの炭酸を飲んだ反応としてはげさといえる顔のゆがみ）を対象にしている。そして、若い女性の「ひどい」顔をわざわざ撮影してもらえという非常識な提案として行われている（かつ、既に録画されていることが周知である状況でのこの提案は現実とはそぐわない）。それに対してレイコは、笑い、「こうやってカメラ視線で？」と言いながら、上体をひねってビデオカメラの方を向く。そして、目を大きく見開いておどけた表情を作ることで反応する。これは、「からかい」の非現実的な提案に沿った形で、しかも、わざとカメラに面白い顔がよく写るように実演することで、「からかい」の対象となった自分を笑いの対象として位置づけ直す行為であるといえよう。

## 5. 教材への応用

これまでの会話教材を見ると、取り上げられている「褒め」に対する反応のパターンは非常に限られており、また、「からかい」に対する反応が扱われることはほとんどない。しかし、今回の結果が示すように、「褒め」や「からかい」に対する反応には、実にさまざまなやり方がある。そのことを学習者が知り、その多様な選択肢からどのように自分のやり方を選ぶのかを検討することは、学習者が主体的に会話に関わっていくために重要であると考えられる。会話教材の開発においては、この点を強調することが必要である。具体的には、「褒め」や「からかい」が含まれるやり取りを提示し、その場面でどのように反応したらいいか（反応したいか）を、クラスメートと話し合うことで学習者の意識化を促す。そして、（個々の学習者にとって）適切な反応を具現化するために必要な表現を提供する。こういった実践が可能となる教材の作成を進めていきたい。

### 【参考文献】

- 岩田夏穂・初鹿野阿れ (2012) 『にほんご会話上手！ 聞き上手・話し上手になるコミュニケーションのコツ 15』アスク出版
- 張承姫 (2014) 「相互行為としてのほめとほめの応答：聞き手の焦点ずらしの応答に注目して」『社会言語科学』第 17 巻 第 1 号、pp.98~113
- Drew, P. (1987). Po-faced Receipts of Teases. *Linguistics*, 25(1), pp.219-253
- Pomerantz, A. (1978). Compliment Responses: Notes on the co-operation of multiple constraints. In Schenkein, J. (Ed.), *Studies in the organization of conversational interaction*, New York: Academic Press, pp. 79-112